

ダイジェスト版

グローバル経済における 公認会計士の使命と役割期待

大阪学院大学

2015年12月9日

公認会計士・監査審査会
常勤委員 廣本 敏郎

公認会計士の世界
3つのキーワード

公認会計士の世界 ミッション

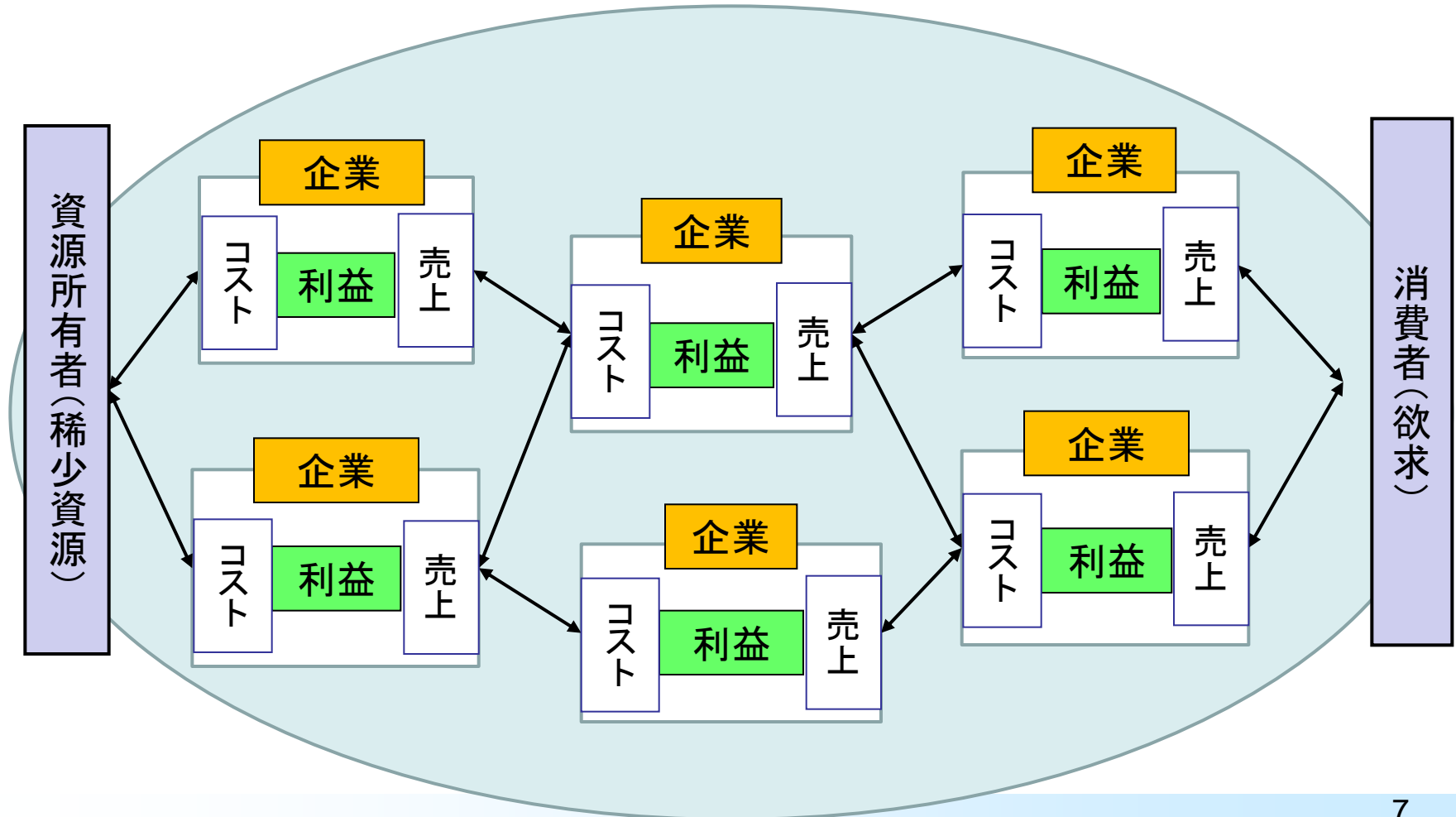
公認会計士の世界
プロフェッショナル

公認会計士の世界
グローバル

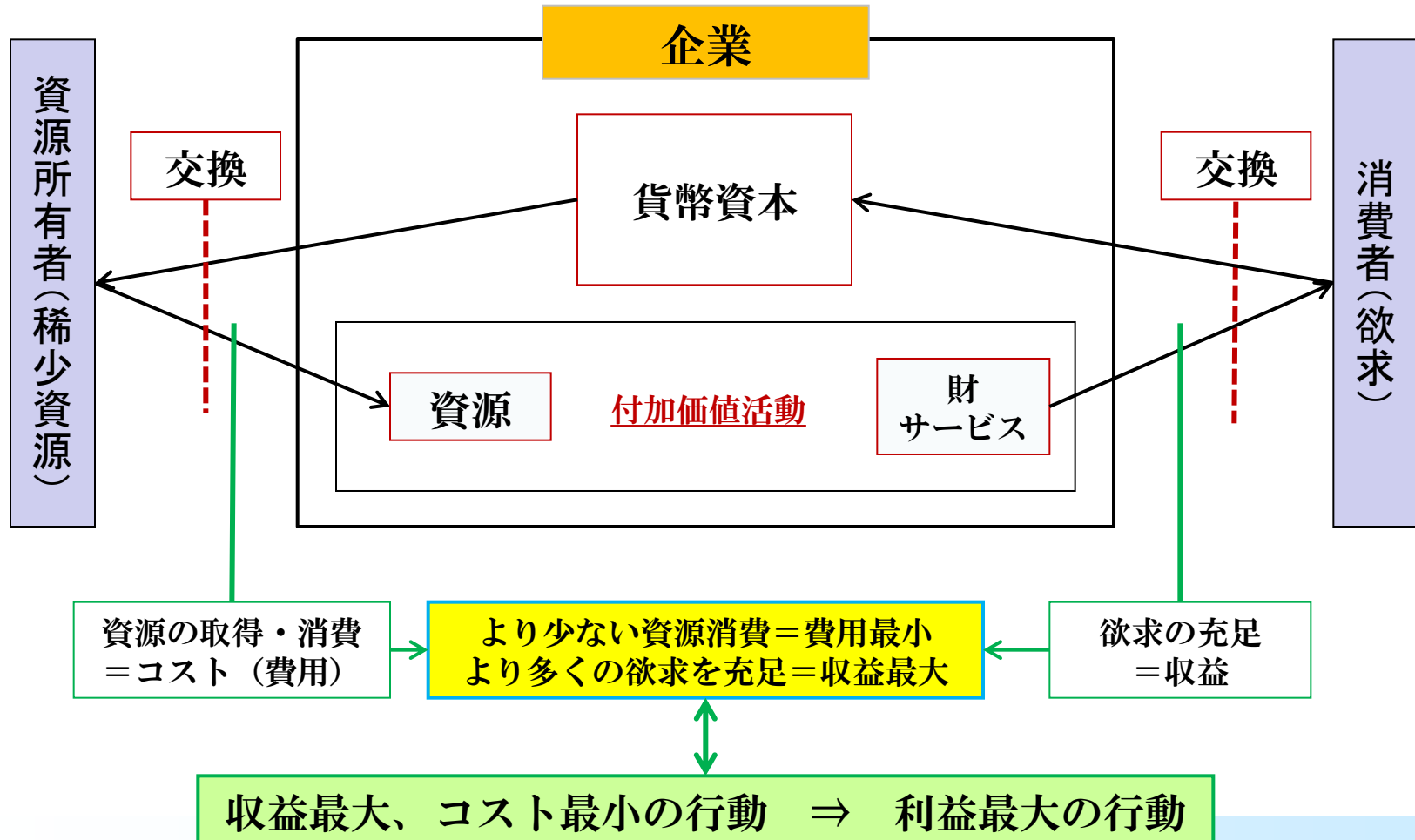
会計なくして経済なし
市場経済を支える簿記会計

会計なくして経済なし

～企業の行動原理「売上最大、コスト最小」～



会計による企業活動の見える化



会計なくして経済なし

市場経済とモラル

アダム・スミスが描いた市場経済

- 経済の世界は、「自分自身の境遇を改善せんとする欲望」によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- (しかし) スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならないということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

(高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁)

わが国資本主義経済の原点

～渋沢栄一の理念～

- 「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一は、利潤追求をめざす経済行為の中にも道徳が必要なことを悟っていた。
 - 私が常に希望しているのは、「物事を進展させたい」「モノの豊かさを実現したい」という欲望を、まず人は心に抱き続ける一方で、その欲望を実践に移していくために、道理を持って欲しいということである。その道理とは、社会の基本的な道徳をバランスよく推し進めていくことに外ならない。

(渋沢栄一 (守屋淳訳) 『現代語訳 論語と算盤』
ちくま新書、2010年、89頁)

市場経済の利他性

～マーシャルの経済学から学ぶ～

- 良い取引は、単に自分だけを潤すのではなく、取引相手も同じように潤してくれる。
 - 洋の東西を問わず、近代から現代に至るまで、経済は市場から利他性を引き出すことで発展してきたと言ってよい。
 - 利他性の強い市場が質の高い市場である。

マーシャルの経済学から学ぶ（続）

- 21世紀の世界に望まれるのは、
 - 構成員一人ひとりが豊かな生活を創り出して
いける利他的な市場に基づく経済である。…
 - 我が国は、社会システムを見直し、利他性の
強い市場経済を形成しなくてはならない。そ
れが、マーシャルから学ぶべき最大の教えだ
ろう。

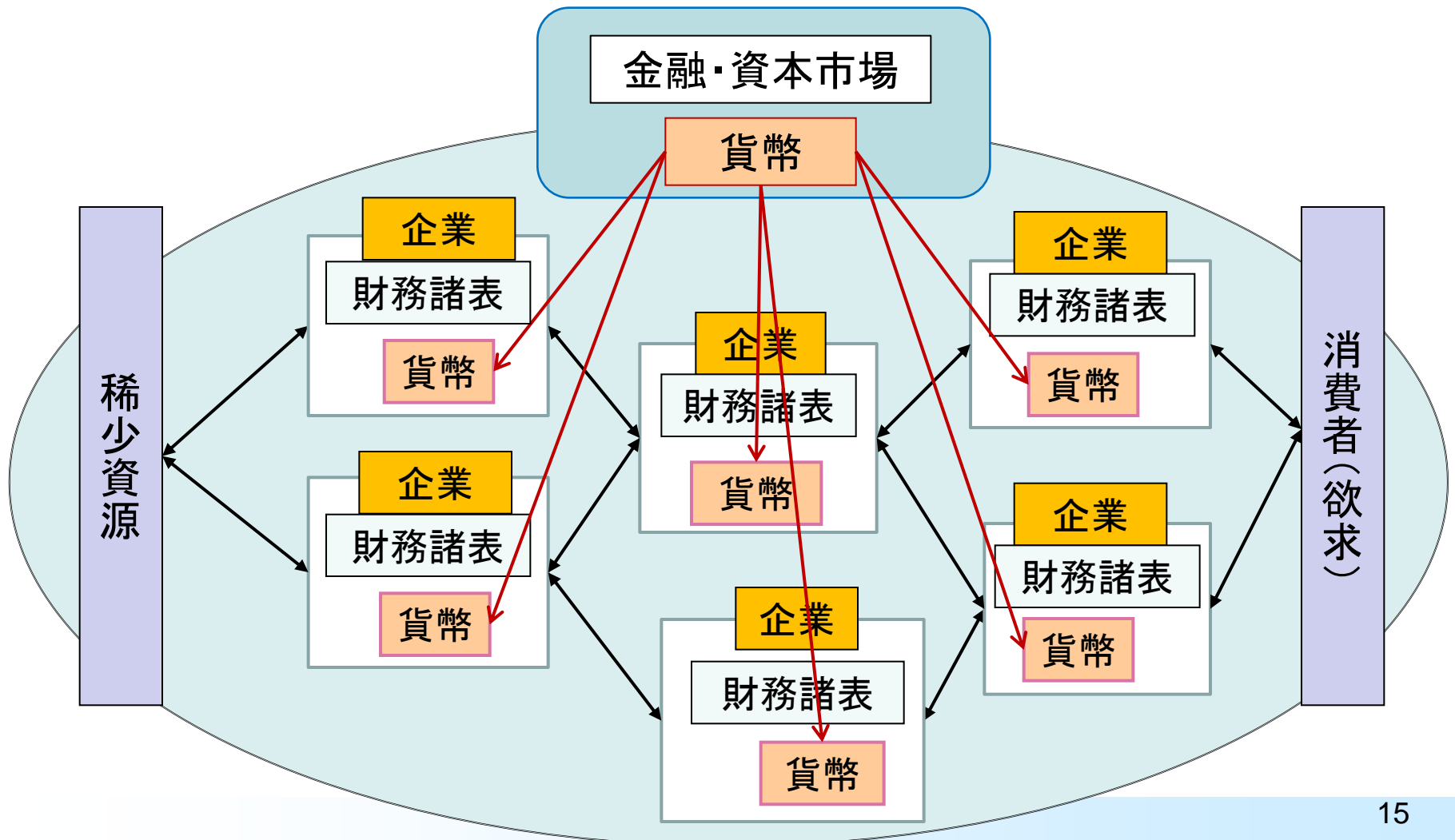
(矢野誠 京都大学教授 『やさしい経済学 危機・先人に学ぶ：
マーシャル⑨利他性強い市場』
日本経済新聞、2012年6月29日)

会計なくして経済なし

金融・資本市場における公認会計士の役割

実体経済を支える金融・資本市場

～国民経済における資金の有効かつ効率的配分～



金融・資本市場の公正性・透明性の確保

- 日本の経済成長には、日本全体で資金が目詰まりを起こすことなく、成長分野に円滑な資金供給がなされるよう、直接金融部門、間接金融部門の金融セクターがともに適切に役割を果たしていく必要がある。
 - 直接金融市場を活性化させるためには、企業の収益力を向上させるとともに、わが国金融資本市場の公正性や透明性の確保を図っていくことが必要であり、市場で提供される金融商品の品質を確保していくことが重要である。

(続く)

金融・資本市場の公正性・透明性の確保（続）

- そのためには、企業の財務諸表をはじめとする財務情報の開示の適正性を確保していくことが肝要である。
 - 適正な財務情報の開示については、作成者である企業経営者に一義的な責任があるものの、公認会計士監査の役割はきわめて重大である。

（金融庁長官・細溝清史「企業会計・監査をめぐる最近の動向」
会計・監査ジャーナル、2015年4月号、2頁）

会計なくして経済なし

超一流企業の経営と会計

松下の経営と会計

- 利益というものは、健全な事業活動を行っていく上で欠かすことのできない、大切なものである。
 - しかし、それ自体が究極の目的かというところ、そうではない。
- 根本は、その事業を通じて共同生活の向上を図る、というところにある。

(続く)

松下の経営と会計（続）

- その根本の使命をよりよく遂行していく上で、利益というものが大切になってくるのであり、そのこのところを取り違えてはならない。
 - そういう意味において、事業経営というものは、本質的には私の事ではなく、公事であり、企業は社会の公器なのである。

（松下幸之助 『実践経営哲学』 PHP研究所、
1978年、26頁）

京セラの経営と会計（続）

- ・ 私は、企業、特に上場している企業は、すでに社会的存在となっているので、できるだけ企業情報は開示すべきだと考えている。
- ・ ディスクロージャーとは、要するに、真実をありのままに伝えるという当たり前のことである。
 - － たとえ「良くない事態」が起きたとしても、勇気を持って社外に対して、ただちに明らかにすることによって、逆に、会社に対する信頼は高まっていく。 （続く）

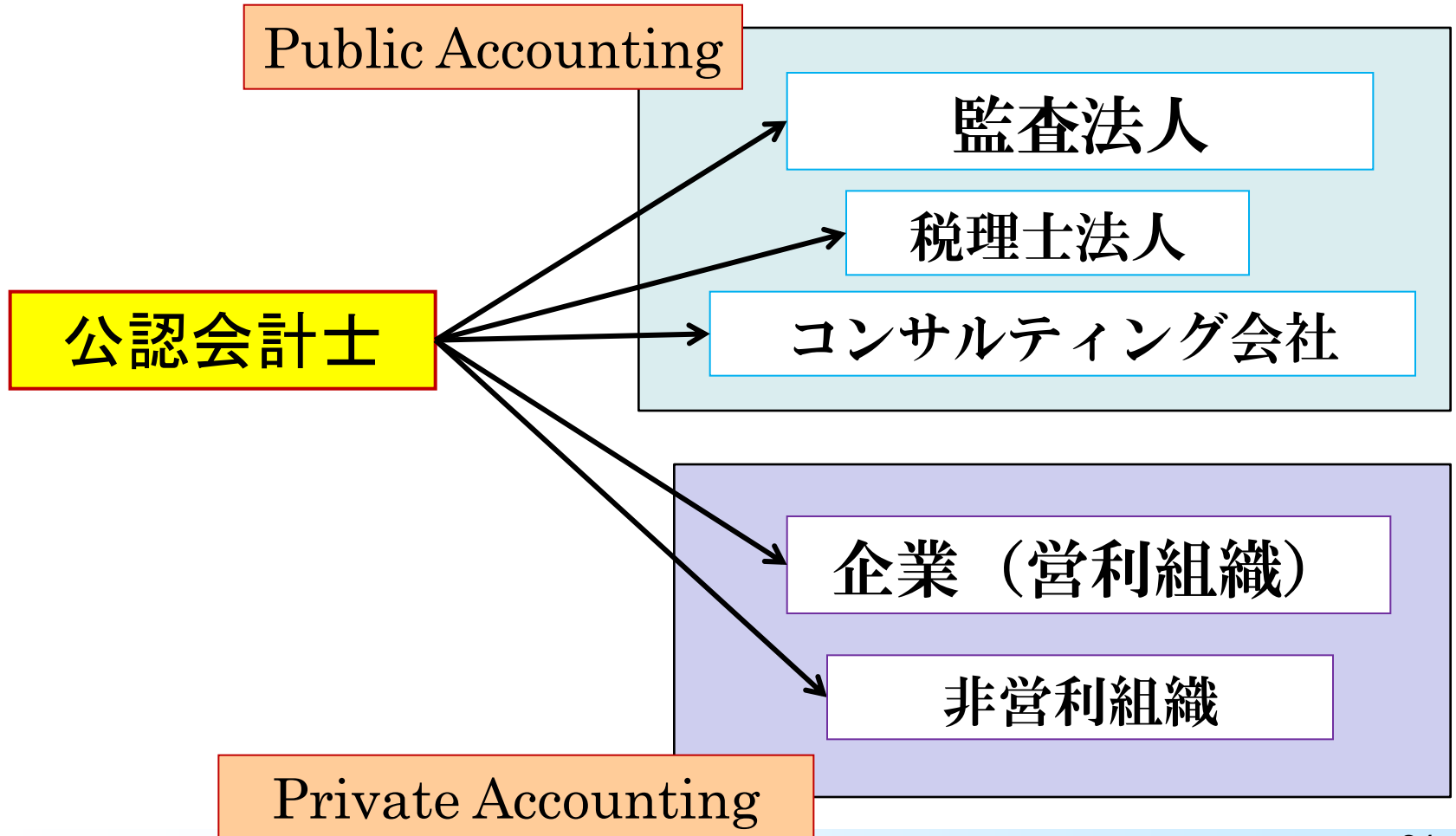
京セラの経営と会計（続）

- 困難に遭遇した時は真正面から立ち向かい、打開策を確実に実行していることを、正直に投資家に対して訴えればよい。
 - ・ しかし、自社のありのままの姿を包み隠さず、オープンにするためには、利益よりも公正さを優先するという確固たる経営哲学が不可欠となる。

（『実学』152-155頁）

活躍する公認会計士
監査だけでなく経済社会で幅広く活躍

公認会計士の活躍領域



公認会計士の不足が一段と深刻に

～日本経済新聞、2015年11月18日～

- 会計士試験の合格者数が年々減少する中で、監査法人は新規株式公開（IPO）や国際会計基準（IFRS）移行、相次ぐ会計不祥事等への対応で採用を増やしているためだ。
 - － 新日本、あずさなど4大監査法人は昨年度とほぼ同じ約1000人強の採用を計画している。例年、試験合格者の8～9割が4大法人に入っており、今年度も同じ傾向が続けば合格者が有利の「売り手市場」になる可能性がある。
 - － 合格者数と採用のミスマッチの解消には時間がかかる見通し。会計に携わる人材の確保が大きな課題となっている。

ご清聴ありがとうございました

充実した大学生活を送られることをお祈りします。

**公認会計士・監査審査会
廣本 敏郎**